

SHIN CLUB 282

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



「代々木の家」 撮影：アック東京

今月のトーク/monthly talk

やわらかな佇まい

代々木公園、明治神宮といったロケーションに隣接している代々木エリア。

都会のオアシスとして憩いの場となっている代々木公園は東京ドーム約11個分ともいわれています。森林公園のみならず、国立競技場や野外ステージも兼ね揃えており、イベントには事欠きません。また、JR原宿駅からすぐの明治神宮は、初詣の参拝客数日本一として知られ、本殿へと通じる参道には、高さ12mもの大鳥居があり、その圧巻な姿は日本最大とも言われています。周辺にお住いの方にはピッタリの散歩コースだといえるでしょう。

交通機関に関して新宿や渋谷、原宿へのアクセスがしやすく、代々木駅には4路線が乗り入れしているため、どこへ行くにも不便がありません。都心に位置しながら、自然や緑も感じられるとても贅沢な地域です。そんな喧騒から離れ落ち着きを感じられる住宅街の一面に、自然を好む建て主様のクリーム色を基調とする、やわらかで優しさを漂わせた住宅が完成いたしました。

今回、ご紹介させていただくのは専用住宅「代々木の家」。海外在住の方からのご依頼を受け設計を担当されたのは、今永環境計画の今永和利氏。コロナ禍の真っ只中であつたこともあり、日本で数回の打ち合わせをおこなった後、建て主様が実際に建物をご覧になられたのは引き渡しのタイミングでした。「コロナの流行前は2,3か月のペースで日本での打ち合わせをおこなっていましたが、流行後は来日が難しく工事の終了する2年半は直接お会いしていませんでした」と今永氏。

そのため、通常とは異なる状況下で建て主様にご納得いただけるよう提出したパースは普段以上の量となりました。その甲斐あって、はじめは難色を示されていた階段の光の抜け感などのディテールも、大変気に入っていただけたそうです。

「代々木の家」の顔ともいえるファサード部分は、建て主様から「異国の地から日本に来ているので、周りの家に対して目立たないようにしてほしい」といった要望が挙げられました。

風水にもこだわりを持たれており、「庭は北ではなく南へ、躯体は上階が下階よりも大きくなってしまっってはいけない」など、多くの条件をクリアしたうえで、各機能を持った部屋の配置を計画する必要があったため普段以上に困難な設計となりましたが、建て主様の要望を十二分に取り入れたうえで、今永氏、建て主様、双方のこだわりが見事にかみ合い、内外部両方のバランスの取れた空間に仕上がりました。

「今回辰さんにとっても感謝していることは、建築のこだわりに対してすごく真剣に向き合ってくれたことです。会社全体、下請けの業者さん方も含め協力してくださいました。僕にとって1番大切にしている部分なので、他の建築家さんが辰さんとお仕事をしていきたいと言っている理由がわかりました」と今永氏。

私たちはこれからも建て主様、建築家の皆様のこだわりに応え続けるべく丁寧な仕事を心がけていきます。

代々木の家



建物全景。ファサード面は階高が1.5階となっている

ファサードの先には

外国籍である建て主様の要望は、主に「異国の地から日本に来ているので、周りの家に対して目立たないようにしてほしい」と、「自然素材を使うこととにおいに敏感なので気をつけてほしい」との2点であった。

要望に応えるため隣家と壁面を揃え、接道側のファサード面は建物高さを1.5階分に抑えることにより道路から見たときに平屋建てに見えるよう周囲の街並みへの調和を図っている。初めて来た方は、ずっと通り過ぎてしまうような控え目な佇まいだが、建物の中に入ると空間の広がりを感じるのが狙いである。

内部はタワーのような多階層となっており、プレート（床）をいろんなところにばらまき、そこに階段をつける。ここに至るまでダイヤグラムで幾度も検討を重ね、計画の基盤となるようにした。さらにそこに外部空間を挟み、裏庭や中庭を含め、一つひとつの空間をどれくらいのバランスにするのかというところを模型などで丁寧にスタディした。

一般的に都市で設計する際は片側に外部空間である「庭」を配置することが多いと思うが、その場合、周囲の視線を受ける向きに大きな開口部を設けてもプライバシーの観点から常にカーテンを閉めている状況になってしまう。そこで「庭」を内部空間に取り込み「中庭」とすることで外部からの視線を気にせず外に向かって大きな開口部を設けることが可能となる。

今回の計画では、玄関から入りすぐに中庭を配置することで大きな開口から視界の抜けを作り、広々とした印象を与える空間を演出した。また、内部空間に吹き抜けを取り入れ、奥様が上で作業をしている気配を感じながらご主人が下で音楽を聴いている、なんていう瞬間があると楽しいのではないかなと思う。

ペンキや接着剤などの揮発性の臭いを大変気にされていたので、日本で長い間使われてきた素材で、においを吸着する漆喰を採用。自然素材、特に出来るだけたくさん無垢の桧を使用し、建て主様の好むやさしい雰囲気の内装になっている。

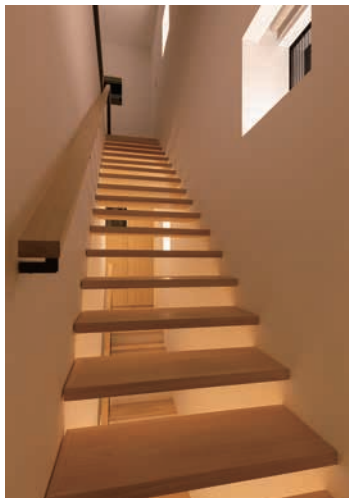
(今永環境計画 / 今永和利氏 談)



パウダールーム。浴槽は桧風呂



玄関。右奥ダイニングまで視界が抜ける



光の抜けを感じる階段

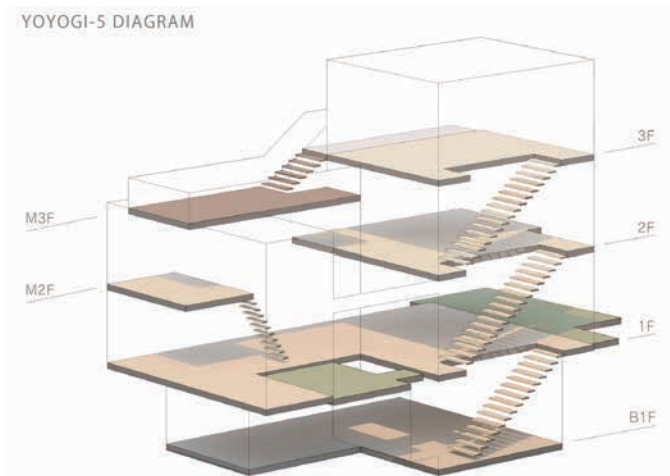
構造：RC造
 規模：地下1階地上3階
 用途：専用住宅
 設計：今永環境計画
 構造：和田譜生構造設計事務所
 設備：創環境設計
 照明：フォーライツ
 家具：スタジオ・カズ
 外構：ノマドクラフト
 竣工：2023年4月
 施工担当：中村・田中
 撮影：アック東京



3階クローゼット



階段手摺



ダイヤグラム



ダイニングから中庭を見る。バリソルの膜で出来た照明器具

Kazutoshi Imanaga



竣工したばかりの住宅にて
撮影：アック東京

今月は「代々木の家」の設計者、今永環境計画の今永和利氏にお話を伺いました。

—これまでのプロジェクトを拝見しましたが、庭やトップライトなど光を積極的に室内に取り入れていらっしゃるんですね。

今永：2006年に設計した「光の煙突効果」という住宅では、大きなトップライトが建物の下に向かってずっと光を入れています。通常建物は見た目が重要視されがちですが、僕はそうではないと思っています。2012年の「SENSE（感覚）」という住宅では、空気感、風の流れやにおい、素材の触感などを意識し「SENSE」と名付けましたが、味覚以外の感覚が住宅にはあります。今回も庭に水があり音を感じられますが、そのような五感に訴える家を作りたいと思っています。独立したところと比べ、気候の変化で鉄筋コンクリート造を希望されるお客様が増えました。雨や地震など、この先更に気候が激しくなるにつれて、どのように設計していけばいいのだろうと悩みます。そんな理由から最近トップライトを使わなくなりました。僕自身、白、特にN95番といわれるような真っ白を使うことが多いのですが、「白いおもちゃ箱」という作品では、8つの白を異なる素材で使っています。一つひとつは冷たく感じる素材ですが、組み合わせるとなぜかやさしく感じるんです。今回もその手法を使おうかと思いましたが、やさしい色が好きだという建て主様に白い素材の良さが伝わらず、かわりに黒を入れさせてほしいとお願いしました。サッシも茶色か白にしてほしいといわれ説得するのが大変でした。ベージュや白の空間に黒を入れることによって全体がやさしい空間になると説得しました。

—今回のように海外の建て主様ですと言葉の壁など困難な点はございますか。

今永：今までの経歴から割と慣れていますが。磯崎新アトリエでは海外の仕事もいくつか経験していましたし、しばらく英国のF.O.Aという事務所で横浜の大さん橋というプロジェクトで日本の代表をしました。言葉の問題で日本人同士のように通じませんのでラス

今永和利 (いまなが かずとし)

1962年 東京都生まれ
1985年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
1985～96年 磯崎新アトリエ
1997年 ロンドン大学パートレット校大学院
ピータークック研究室終了
1998～00年 F.O.Architects Ltd.London
2000年～ 今永環境計画 代表

【受賞歴】

1996年 文化庁派遣芸術家在外研修員
2003年 沼津市優良建物 最優良作品（沼津つむぎや）
2005年 グッドデザイン賞（白いおもちゃ箱）
2006年 あたたかな住空間デザインコンペ
ティション 東京ガス賞
2013年 モダンリビング大賞 大賞（SENSE）



右手にはクライアントから「和風にしてほしいがデザインは洋風で」と要望のあった庭と、光を地階まで届けるドライエリア

トレーションはありますが、最近徐々に分かってきたのは、建て主様が重要とするポイントでコンセンサスを取っておけば大丈夫であろうということ。

日本人も海外の方も一緒に、むしろ言葉が細かなところまで分からない分簡潔に要点を伝えることでお互い良い関係が築けます。

—手摺の納まりなど、細部まで凝っていらっしゃるんですね。

今永：独立する前に磯崎アトリエやFOAにいましたが今の自分の作品と比べても、目に見えるカタチに共通点を見出すのは難しいかもしれません。僕が磯崎アトリエにいたころは、スタッフが20名程で毎月大きな国家プロジェクトが立つような忙しさでした。若くても1人でプロジェクトを任されるので20くらいのプロジェクトを担当しましたが、その一つひとつに磯崎さんは細かいところまで検討していました。建築ってここまでこだわって作らないといけないんだ、と建築に向き合う姿勢を教えてくださいました。当時は磯崎さんの気持ちや取り組みかたを盗んでやろうという気持ちで働いていました。

FOAも同じで、一つひとつの手摺をどうつけるか、ということと検証していました。そういう意味で僕のなかで精神的な流れを引き継いでいると思っています。

—今回意匠、構造、設備、照明、家具、外構とチームで設計監理されていましたが。

今永：それがもしかして1番の磯崎さんの影響かもしれません。というのも、磯崎さんはいつも色んな人の意見を聞いていました。僕もどんなに小さな住宅でも各専門の「チーム今永」の皆さんにお願いしています。それぞれに細かなディテールが素晴らしいです。今回も建て主様の難しい要求にも応えて、五感で感じる家が出来ました。皆さんとは磯崎アトリエからの繋がりや出会った方たちやその方の紹介などで長い付き合いで感謝しています。

—本日はどうもありがとうございました。



SENSE(2012年) 撮影：中村絵

TOPICS/INFORMATION

「2023年社内イノベーション大会」が開催されました 2023年8月5日(土)

毎年恒例の社内「イノベーション大会」が今年も開催されました。「全社員の創意工夫で、より良い会社を目指そう」をコンセプトに、チーム分けされた社員がプレゼンテーションをおこなう社内イベントです。

今年のチームの部のテーマは、弊社の経営理念「一流思考、情熱・挑戦・進化、辰ブランド・辰プライド」。実施結果、成果、効果として会社の業績UPや成長発展につながる内容ということで、現場目線でのプレゼン内容が多く見られました。

各チームの持ち時間は5分間。次の8項目について審査員が50点満点で採点します。

＜イノベーションについて：各10点満点＞

- ①実現性・具体性
- ②オリジナリティ・画期的
- ③向上心・情熱・革新的

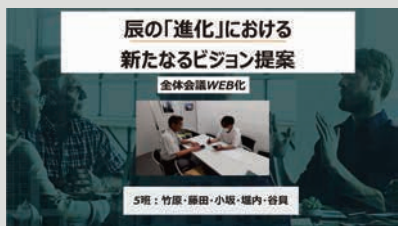
＜プレゼンテーションについて：各4点満点＞

- ④発表内容の分かりやすさ
- ⑤テーマとの一致性
- ⑥時間・話すスピード
- ⑦発表資料・手元資料の分かりやすさ
- ⑧チームワーク



■ 1位
「脱！蛙化現象復活係員会議」

デザイン性の高い建築物の施工が得意な弊社。他ではできない経験やスキルを多く得ることのできる環境ゆえ、やりたいことや将来のイメージを膨らませ入社してくれる社員が多くいます。ですが入社後、思っていたビジョンと違ったり、建築会社の大変さを目の当たりにし、志半ばで退職される方もいます。そういった「蛙化現象」を防ぐため、以前おこなっていた係員会議を復活させ、若手の声が社内へ届くことでより良い職場環境へ変化させる提案です。



■ 2位
「全体会議 WEB化」

毎月おこなわれている全体会議。コロナ禍でリモートワークが主流になりつつあるビジネスモデルに、現場事務所から参加可能とすることで作業効率をアップさせる提案です。

また各チーム1票を持ち票とし、自分のチーム以外へ投票します。各チーム25点満点で採点。審査の結果、次のようになりました。

＜チームの部＞
■ 1位：「脱！蛙化現象 復活係員会議」*賞金 ¥100,000-
2班 (山川保晴・斉藤絵美・笹原泰祐・幾原綾美・齋藤歩美)
合計得点 399点

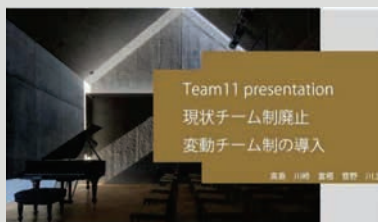
■ 2位：「全体会議 WEB化」*賞金 ¥60,000-
5班 (竹原栄吉・藤田有三・堀内唯衣・小坂康太・谷貝真美)
合計得点 386点

■ 3位：「変動チーム制の導入」*賞金 ¥30,000
11班 (高島洋・川崎徹・富樫賢也・菅野心平・川上智哉)
合計得点 380点

＜個人の部＞

■ 1位：「仮払・請求書郵送」 *賞金 ¥20,000-
福島 隆之介

■ 2位：「日直当番」 *賞金 ¥10,000-
笹原 泰祐



■ 3位
「変動チーム制の導入」

現場によって、施工の難易度、規模、必要人員など大きく変化します。現在の固定チーム制を廃止し、課長自らが担当現場や現場所員の選定などの選択決定権を持つことでチャレンジ精神が生まれ、技術力向上へと繋がります。

入賞チームには代表の岩本より賞金が授与されました。採用された案は、社内改善委員会によって近年中に実行予定です。日本一の建築会社となるための、大きな一歩となることでしょう。



【チームの部】 左から2班(笹原)/5班(谷貝)/11班(富樫) 【個人の部】 左から1位:福島隆之介/2位:笹原泰祐



「(仮称) ティノラス神宮前」新築工事 地鎮祭

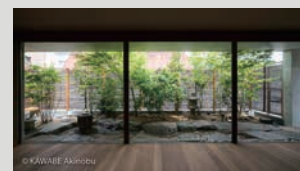
2023年8月22日



表参道から1本路地を入った好立地に、新たな店舗・事務所ビルを建築します。

構造/規模:RC造/地下1階・地上2階
用途:店舗・事務所
設計:ケース・リアル(株)/渡辺淳一建築設計事務所
施工担当:石井(尾内チーム)
完成予定:2024年6月

「A邸」が「庭：邸宅の庭Ⅱ 2023秋」に掲載されました



SHIN CLUB268号でご紹介いたしました「A邸」が「三水の庭」として「庭：邸宅の庭Ⅱ 2023秋」に掲載されました。木や石などの自然素材にこだわった、日本庭園をゆったり眺めることのできる特別空間の建物です。

【A邸】
■構造:RC造 ■規模:地下1階・地上3階 ■用途:専用住宅・事務所
■プロデュース:(株)GREFICA ■設計・監理 YOSHIHARAGUMI INC.
■庭:(株)樹井澤デザインスタジオ ■施工担当:堤 ■竣工:2022年4月 ■撮影:川辺明伸

編集後記

・最近鈴虫の鳴き声を聞くようになりました。まだまだ暑い日が続いていますが、季節は変わりをはじめています。2023年も振り返りを過ぎました。体調を整えて、年末に向けて業務に励んでまいります。

(株)辰通信 Vol.282 発行日2023年9月10日
編集人:本間夏来/村上由衣/土屋祐一郎 発行人:岩本健寿
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS 渋谷ビル5F TEL:03-3486-1570
FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL:http://www.esna.co.jp



「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。バックナンバーもPDFで掲載しています。スマホはこちらから→

